

(令和6年度)

神戸市シルバーカレッジ 講義概要(シラバス)

コース 専攻	国際交流・協力コース	対象学年	2年
講義日	令和7年1月24日(金)、1月31日(金)		
テーマ	アメリカはこれからどこへ向かうのか？ アメリカ社会の現状と課題を考える①②		
講師	神戸市外国語大学名誉教授 大塚 秀幸		
講義内容			
<p>2024年11月に行われた米大統領選挙では、あのトランプが返り咲くのか、それとも現職の副大統領カマラ・ハリスが勝利して、米国史上初の女性で非白人の大統領が誕生するのかと世界中の関心を集めたが、結果はトランプの完勝に終わった。選挙の帰趨を決めるのは、ミシガン州やペンシルバニア州など、いわゆる激戦7州の結果であると早くから予測されていたが、トランプはこれらの7州全てで勝利し、再度の大統領職を手中にしたのであった。講義の第1日目では、CNNの出口調査結果や多くの報道データを活用し、トランプ勝利の背景を検討してみたい。</p> <p>講義の2日目では、選挙結果が判明するやいなや始まったトランプ詣での若干を紹介しながら、現代の専制君主トランプの誕生が、米国のみならず世界全体にどれほどの混乱をもたらすかを、米国史の基本に立ち返りながら検討してみたい。</p>			
講師からのメッセージ			
皆さんが関心を持たれた米国に関する報道(記事や論文など)を持ち寄ってください。一緒に議論いたしましょう。			

神戸市シルバーカレッジ 講義概要(シラバス)

コース 専攻	国際交流・協力コース	対象学年	2年
講義日	令和7年1月10日(金)		
テーマ	国際機関と人道支援		
講師	赤星聖(神戸大学大学院国際協力研究科)		
講義内容			
<p>1. ねらい</p> <p>世界各地で生じている人道危機(紛争・自然災害など)下で影響を受けている人々に対して、国際機関(国連や NGO など)がどのような活動を行っているのかについて、具体的に理解できるようになることを目的とします。</p> <p>2. 主な内容</p> <p>午前のセッションを講義形式とし、午後のセッションでディスカッションを行う予定です。この2つのセッションを通して、具体的に国際機関がどのような活動を行っているのかについて議論していきます。</p> <p>1) 国際機関とは何か。一般的にどのような活動をしているのか。 2) 人道支援とは何か。どのような機関がどのような活動をしているのか。 3) ディスカッション。現在の人道危機が抱える課題にどう取り組むか</p>			
講師からのメッセージ			
<p>紛争や自然災害において最も深刻な影響を受けるのは一般の人々です。このような人々に対する支援が国際的にはどのように行われているのかを議論したうえで、日本国内でも活かしていくひとつのきっかけとなれどと考えています。どうぞ授業では積極的にご意見をいただければ幸いです。</p>			

神戸市シルバーカレッジ 講義概要(シラバス)

コース 専攻	国際交流・協力コース	対象学年	1～3年
講義日	令和6年12月9日(木)		
テーマ	戦後日本外交と沖縄		
講師	同志社大学政策学部 月村太郎		
<p>講義内容</p> <p>1945年に敗戦してから、戦後の日本は来年に80年目を迎えます。日本はサンフランシスコ講和条約後に、国際社会に復帰することになりました。この間に、いわゆる連合国による占領行政は、日本の国家安全保障政策に関して大きな変化を見せます。冷戦構造の成立により、不安定な朝鮮半島情勢に鑑み、日本は西側世界、特に米国によるグローバル安全保障政策のアジアにおける橋頭堡の役割を担うことになりました。しかし日本国憲法の規定により、日本は、十全の規模・装備を有する「軍隊」を持つことはありませんでした。このことは、国家安全保障の根幹を米国に委ねるといふ、防衛問題の根源的課題を日本に突きつける一方で、そうであるが故に多くの資源を経済発展に振り向け、非常に稀な経済成長を遂げることができました。そして、経済大国になった日本による政府開発援助が、多くのアジア諸国の発展に繋がったことも事実です。この講義の前半では、国家安全保障だけでなく、それと並んで外交を支えてきた両輪である政府開発援助の実態にも触れながら、戦後の日本外交を振り返ってみます。</p> <p>講義の後半には、沖縄に焦点を当ててみたいと思います。沖縄は、アジアにおける米国の地域的安全保障の中心のひとつですが、その点について、我々の理解はどこまで進んでいるのでしょうか。隣国の圧力が強化されているのであればある程、我々は沖縄に対する理解を深めなくてはならないと思います。</p> <p>日本の国家安全保障政策について論ずると、国家的合意の位置がどの辺りにあるのかについて必ずしも明らかではないので、政治化、イデオロギー化してしまうことが良くあります。この講義を通じて、日本の戦後外交について理解を、一緒に含めていきたいと思います。</p>			
<p>講師からのメッセージ</p> <p>この講義で取り上げられないことについても、日本外交について皆さんが普段から感じている疑問がありましたら、是非とも講師に問いかけてみてください。</p>			

神戸市シルバーカレッジ 講義概要(シラバス)

コース 専攻	国際交流・協力コース	対象学年	2年
講義日	令和6年11月1日(金)		
テーマ	民族紛争		
講師	同志社大学政策学部 月村太郎		
<p>講義内容</p> <p>20世紀末にソ連とユーゴスラヴィアという共産主義国家が解体し、それに伴って、暴力的な紛争が起きました。そのときのキーワードが「民族紛争」です。同時期に、アフリカ中部のルワンダで大量虐殺が起きました。この場合にも、「民族紛争」に注目が集まりました。2001年9月11日に米国で起きた同時多発テロ事件をきっかけに、国際政治の注目は「対テロ戦争」に移りました。その後も「アラブの春」、難民危機、ロシア・ウクライナ戦争、ガザ危機と、国際政治はめまぐるしく移り変わっています。しかし、こうした国際政治上の事件の多くには「民族」が関係しています。ロシア・ウクライナ戦争の発生の際に、プーチンが指摘したのは、ウクライナにおけるロシア人の扱いでした。ガザ危機では、パレスチナ人(アラブ系)組織のハマースの急襲に対するイスラエル(ユダヤ人中心)の徹底した攻撃が日々報道されています。日本では報道されていない民族紛争も数多くあります。</p> <p>「民族」とはよく使われるにも拘わらず、そして何となく分かっている感じがするにも拘わらず、理解が曖昧な言葉のひとつです。それが最も明らかになるのが、「民族」と「国民」はどこが違うのでしょうか、という問いに対して答えようとするときではないでしょうか。</p> <p>この講義では、まず「民族」を定義した上で、民族紛争の事例を紹介し、民族とはどのようなものかに関する理解を深めることが目的となります。時間に余裕があるようでしたら、民族紛争はどうして起こるか、民族紛争はどのように防げるのかについてもお話ししたいと思います。</p> <p>参考文献:月村太郎『民族紛争』(岩波新書、2013年)</p>			
<p>講師からのメッセージ</p> <p>講義に関連する質問も勿論ですが、国際政治に関して皆さんが普段から感じている疑問についても、是非とも講師に問いかけてみてください。</p>			

(令和6年度)

神戸市シルバーカレッジ 講義概要(シラバス)

コース 専攻	国際交流・協力コース	対象学年	2年
講義日	令和6年9月13日(金)		
テーマ	難民問題を考える		
講師	関西学院大学総合政策学部教授 清水 康子		
講義内容			
1. ねらい 難民の人たちの背景・難民支援の制度について知り、難民(支援)と自分との関わりを考える。			
2. 主な内容			
1) 世界の難民の人たちー講師の経験から			
2) 難民とはどのような人のことを言うのか			
3) 世界の難民状況			
4) 難民支援・グループワーク			
5) 難民支援の国際制度の歴史・日本の歴史			
6) 災害支援と難民支援			
講師からのメッセージ			
受講生の皆様の意見や期待を取り入れて、授業をすすめます。感染状況を見ながら、可能であれば、グループワークをしながら、意見交換をする形式にしたいと思います。			

神戸市シルバーカレッジ 講義概要(シラバス)

コース 専 攻	国際交流・協力コース	対象学年	2年
講義日	令和 6年 7月 19日(金)		
テーマ	国際政治における国際組織の役割		
講 師	神戸大学大学院法学研究科教授 松村尚子		
<p>講義内容</p> <p>国際社会には、国際連合をはじめとして、多くの国際組織が存在します。なぜ、これらの国際組織は作られたのでしょうか。また、国際社会にとって役に立つ存在なのでしょうか。</p> <p>本講義では、これらの問いに答えるため、国際組織の成立と発展について、歴史的経緯を振り返るとともに、主要な国際組織である国際連合と国際刑事裁判所を取り上げ、その役割を考察します。具体的には、国際連合について安全保障理事会(安保理)の役割、国際刑事裁判所について、戦争犯罪をめぐる捜査や裁判を取り上げます。これらの国際組織と日本との関係についても解説します。おおむね次のような論点を取り上げる予定です。</p> <p>午前中：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国際組織はいつ頃・なぜ誕生したのか？ 2. 国際組織は世界のどこに・どのぐらい存在するのか？ 3. 国際組織は国家間の協力を進めるのか？(理論的な話) <p>午後：</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 国際連合(安保理)の役割とは？ 5. 国際刑事裁判所(ICC)の役割とは？ 6. 日本と国際組織 <p>※内容は、多少変更される可能性があります。</p>			
<p>講師からのメッセージ</p> <p>皆様にとって、国際組織は馴染みの薄い存在かと思いますが、国際政治では重要な役割を担っています。この機会に知識を深めていただき、日々のニュースなどを読む一助にいただければ幸いです。</p>			

神戸市シルバーカレッジ 講義概要(シラバス)

コース 専 攻	国際交流・協力コース	対象学年	2年
講義日	令和6年6月14日(金)		
テーマ	ブラジル社会と政治経済		
講 師	神戸大学経済経営研究所 教授 浜口伸明		
講義内容			
<p>1. ブラジルとはどんな国か</p> <p>広大な国土と地域・民族・文化の多様性を紹介します。是非行ってみたい美しい景観、ダイナミックな自然、親日的な人々について勉強しましょう。また、主に神戸が送出国となつて、戦前戦後を通じて25万人が日本から移住し、現在190万人とされる外国では最大の日系人社会を有するブラジルは「遠くの親戚」でもあります。ブラジルと日本、神戸の関係についても考えてみましょう。</p> <p>2. ブラジルの社会と政治経済</p> <p>豊かな天然資源に支えられた多民族社会ブラジルと、同質的な労働力で経済発展を成し遂げてきた日本は対極にあると言えるかもしれません。農業、金属資源、エネルギー資源などでブラジルが持っている高い経済的ポテンシャルとともに、多様であるがゆえに生じる格差社会の現実の苦悩をひも解きます。アマゾンの森林破壊が教える経済開発と環境保全の対立についても考えてみましょう。</p>			
講師からのメッセージ			
ブラジルは日本から30時間もかかるので気軽に訪れることは難しいですが、神戸と縁の深い所でもありますので、この講義を通じて少しでも身近に感じていただければ幸いです。			

神戸市シルバーカレッジ 講義概要(シラバス)

コース 専 攻	国際交流・協力コース	対象学年	2 年
講義日	令和 6 年 5 月 31日(金)		
テーマ	ミャンマー難民との共生を考える—ドキュメンタリー映画「OUR LIFE」制作の背景を通して		
講 師	国際ファッション専門職大学／京都大学東南アジア研究研究所 直井 里予		
<p>講義内容</p> <p>ねらい:本講義では、講師本人が制作した難民に関するドキュメンタリー映画の参考上映とディスカッションを通し、国際協力や難民の支援活動について理解を深めます。</p> <p>内容:</p> <p>① 国際問題の根源的要因を深く考察する。(ミャンマーの少数民族問題を事例に、紛争の歴史的背景を理解する)</p> <p>② 難民キャンプにおける国際 NGO(ボランティア)の役割を理解する。</p> <p>東南アジアは、多様な民族、宗教、文化で構成されています。その多様性を共存させつつ、民族や宗教の抗争や貧困など、多くの問題も抱えています。このような多様性の中で、人々はどうのように社会で関係性を形成し、維持しているのでしょうか。また、人々の日々の生活を支える地域の諸問題を解決するには、どうすればよいのでしょうか。</p> <p>本講義では、タイ・ミャンマー国境に位置する難民キャンプで生まれ育ったミャンマー難民の少年とその家族の生きざまと心の軌跡を 10 年間に渡り描いたドキュメンタリー映画『夢の終わり—OUR LIFE 2』を通して、ミャンマー難民は、難民キャンプの変化とどのように関わりながら生き、第三国定住地でどのような社会関係を形成しているのか、また、国際 NGO 団体の活動内容を紹介しながら、難民キャンプにおける NGO の役割に関して考察します。</p> <p>さらに、2021年 2 月1日のミャンマーで発生した軍によるクーデターが、難民の帰還にどのような影響を与えたのかを考察しながら、ミャンマーの現状を難民問題の視点から議論します。</p>			
講師からのメッセージ			
<p>映画の上映の後は、各グループにわかれて、ディスカッションと発表を行います。日本における難民の受け入れ政策や難民支援の在り様など、皆さんと一緒に考えていければと思います。</p>			

神戸市シルバーカレッジ 講義概要(シラバス)

コース 専 攻	国際交流・協力コース	対象学年	2 年
講義日	令和 6 年 5月 16日(木)		
テーマ	アセアンを知る		
講 師	太田和宏 神戸大学大学院人間発達環境学研究科 教授		
講義内容			
<p>多様性を含みながら一体性を追求する東南アジア・アセアンの現代的意義とその背景について考えてみたいと思います。</p> <p>東南アジア地域は、言語、民族、宗教、文化、政治経済体制など、どの観点から見ても多様で複雑な要素を持っています。しかしそれらは別々に存在するのではなく、お互いに関連し影響をあたえあい、融合をしながら今日に至っています。</p> <p>そして現在、10の国家があつまり「アセアン共同体」を形成して、「国家」という単位を超えた協力関係をより一層強めつつあります。それがと雲南アジア地域の統一性を高めるだけでなく、変容するグローバル社会にも大きな影響力を与える存在になりつつあります。</p> <p>このように多様性を持ちながら変容しつつあるアセアンについて、文化的歴史的背景を概観しつつ、現在のグローバル社会の中で果たす役割について検討したいと思います。</p>			
講師からのメッセージ			
<p>今後、日本が関係を一層強めていく東南アジアへの理解が少しでも深まればうれしく思います。</p>			

神戸市シルバーカレッジ 講義概要(シラバス)

コース 専 攻	国際交流・協力コース	対象学年	2年
講義日	令和6年5月10日(金)		
テーマ	国際関係の歴史		
講 師	同志社大学政策学部教授・神戸大学法学部名誉教授 月村太郎		
講義内容	<p>新型コロナウイルスの蔓延、ロシアによるウクライナ侵攻、最近の国際関係は急激に変化しているように感じられるかもしれない。しかし新型コロナと中世のペストや第一次世界大戦に伴うインフルエンザの流行、ウクライナ侵攻とふたつの世界大戦とを比較するならば、我々を取り巻く国際関係の急変も相対化できる筈である。身近な個人的経験を絶対化せずに相対化することは、我々に最も必要とされる理解の仕方である。その為にも歴史に学んでいきたい。19世紀以降、最も大きな変動を経験した地域に「バルカン」がある。「バルカン」を事例に、近代以降の我々がどのような歴史を刻んできたかを学ぶことで、ユーラシアの東端に位置する島国に住んでいる今の我々を相対化することを試みてみたい。</p>		
講師からのメッセージ	<p>講義において浮かんだ疑問や感想はそのままにせず、講義の終わりに設ける時間帯に講師にぶつけて下さい。</p>		

神戸市シルバーカレッジ 講義概要(シラバス)

コース 専 攻	国際交流・協力コース	対象学年	2年
講義日	令和6年5月9日(木)		
テーマ	国際関係の現在		
講 師	同志社大学政策学部教授・神戸大学法学部名誉教授 月村太郎		
講義内容	<p>冷戦以降の現代の国際関係の傾向は、グローバル化として一言で纏めることができる。しかし、一方でグローバル化の特徴を経済による国境の相対化と定義するならば、近代以降の歴史は常にグローバル化であったし、他方でグローバル化に対する反作用として、政治的主権による「反撃」が目立つところである。その端的な例が、トランプ前米大統領による「アメリカ・ファースト」であり、プーチン露大統領によるウクライナ侵攻である。この講義では、そうした経済と政治の国際的なせめぎ合いについて、どのような現象が起きているかを紹介したい。</p>		
講師からのメッセージ	<p>講義において浮かんだ疑問や感想はそのままにせず、講義の終わりに設ける時間帯に講師にぶつけて下さい。</p>		

神戸市シルバーカレッジ 講義概要(シラバス)

コース 専攻	国際交流・協力コース 専攻	対象学年	2年
講義日	令和 6 年 4 月 26 日(金)		
テーマ	校外学習 外国人居留地と神戸港		
講師	シニアルネサンス研究会 会長 楠本利夫		
<p>講義内容</p> <p>神戸は1868年1月1日に開港した。開港した神戸に各国は領事館を開き、世界中から来神した貿易商が外国人居留地に商館を構えた。日本人も国内各地からチャンス求めて神戸に移住してきた。開港の翌1869年、スエズ運河が開通し、極東と欧州の間の海上距離が大幅に短縮され、東西の人流、物流が盛んになり、神戸は横浜とともにわが国の「世界への窓口」となる。開港は国際都市神戸の原点である。</p> <p style="text-align: center;">(現地案内コース)</p> <p>市庁舎1階ロビー集合 24階展望台(神戸港遠望)→マラソン発祥の地記念碑→東遊園地(加納宗七像→震災と復興モニュメント→花時計→子ども本の森・神戸→モラエス像→シム記念碑)→居留地運上所跡(維新政府初外交)→海岸通・京橋・海軍操練所跡(遠望)→旧英国領事館→旧オリエンタルホテル→ドイツ領事館跡→シム薬種館→カベルデュ(洋服商)→「敷地境界壁」→「15番館」→宮城道雄生誕地碑→生田馬場道・東関門跡(遠望)→神戸事件記念碑(三宮神社)→居留地行事局跡)→鯉川筋→臨港鉄道線路敷跡→海軍營之碑→メリケン地蔵→メリケンパーク(昭和天皇歌碑→神戸港震災メモリアルパーク→神戸海外移住者像)→「かもめりあ」(神戸港クルーズ)→ハーバーランド→「史跡 明治天皇御用邸跡」記念碑→鈴木商店本店跡碑→兵庫県里程元標→西関門跡(旧三越跡：解散)</p>			
<p>講師からのメッセージ</p> <p>国際都市の原点である神戸外国人居留地と神戸港を実地見学し、開港が神戸をどのように変えてきたのかを学ぶ。</p>			

神戸市シルバーカレッジ 講義概要(シラバス)

コース 専攻	国際交流・協力コース 専攻	対象学年	2年
講義日	令和 6年 4月 12日(金)		
テーマ	『豪商神兵湊の魁』(明治中期の神戸商工観光名鑑)と外国人居留地・神戸港		
講師	シニアルネサンス研究会 会長 楠本利夫		
講義内容			
<p>1868年1月1日の神戸開港が、後の国際都市神戸の原点である。</p> <p>開港の翌(1869)年、スエズ運河が開通し、欧州と極東の海上距離が大幅に短縮され、東西の交流・物流が盛んになり、神戸は東の横浜と共に我が国の世界への窓口となる。</p> <p>(1) 神戸外国人居留地と神戸港</p> <p>開港で神戸の海沿いの砂浜・畑地に外国人居留地が開設された。居留地は日本人には博覧会会場のような「異文化空間」であった。世界中から神戸に来て神戸に住み着いた外国人たちは、貿易を通じて神戸の発展に寄与し、ライフスタイルが神戸に新たな文化を定着させた。</p> <p>開港が神戸をどのように変え、後の国際都市神戸の発展にどのように繋がっていったのかを受講者と共に考える。</p> <p>(2) 『豪商神兵湊の魁』</p> <p>『豪商神兵湊の魁』は、神戸と兵庫の工場・商店と観光名所を網羅した「商工・観光名鑑」である。同書(横17.8cm×縦7.6cm、152頁、銅版画76枚、明治15年11月刊行)は、文章中心の史書を補完する画像資料である。神戸開港が神戸と兵庫をどのように変えたのかを、同書から、受講者と共に考える。</p>			
講師からのメッセージ			
<p>神戸は「明治(維新政府)初外交地」であり、「日本海軍発祥の地」であることは、意外と知られていない。神戸の都市魅力の原点といえる神戸開港の意義と効果を、学生と一緒に考えていきたい。</p>			